

病気に強い麦茶用六条大麦新品種 「カシマホープ」の奨励品種採用

農業総合センター農業研究所

本県の麦茶用六条大麦主要品種「カシマゴール」は、麦茶加工適性に優れますが、土壌伝染性のオオムギ萎縮病に弱く、細麦が発生しやすいこと等により、収量・品質の低下が問題となっています。

そこで、オオムギ萎縮病等の病気に強い新品種「カシマホープ」の特性を調査した結果、「カシマゴール」と比較して、麦茶加工適性は同等に優れ、生育及び収量は同等以上に優れていたため、本品種を本県の奨励品種として採用しました。

「カシマホープ」は倒れにくく多収

「カシマホープ」は農研機構作物研究部門で育成された品種です。

「カシマゴール」と比べた栽培性の特徴は以下の通りです。

- ・稈長は同程度～長いですが、稈が折れにくく、収穫時に倒れにくい。
- ・整粒歩合（2.2mm以上の粒の重量の割合）は同程度～高く、収量は105～204%で多収。



「カシマゴール」 「カシマホープ」
図1 登熟期の草姿（令和6年5月2日撮影）



「カシマゴール」 「カシマホープ」
図2 麦茶粒の外観

病気に強く、麦茶加工適性に優れる

- ・「カシマホープ」はオオムギ萎縮病及びオオムギ萎縮病に強く、これらの原因ウイルスに汚染されたほ場でも安定した生育が得られます。
- ・麦茶を製造する加工会社に対して、試験的に本品種で麦茶の製造を依頼し、評価してもらったところ、麦茶加工適性は同等との評価が得られました。

県内全域に普及促進

県では、「カシマホープ」を「カシマゴール」に替えて、県内全域に普及推進するため、奨励品種に採用しました。

「カシマホープ」はオオムギ萎縮病及びオオムギ萎縮病が発病しているほ場で、病害の被害が抑えられ（図3）、収量・品質が向上し、生産者の所得向上につながります。



図3 登熟期の「カシマホープ」
（オオムギ萎縮病発生ほ場）